



# 井上けんじの もっといいまちへ 新しい視点と確かな実践力

7月20日発行 毛呂山町議会だより第69号に合わせて

平成22年7月27日

発行：井上健次

(毛呂山町議会議員)

〒350-0438

埼玉県入間郡毛呂山町西戸771-1

TEL 049 (294) 1789

事務所 049 (294) 2404

FAX 049 (294) 1764

E-mail farmi@taupe.plala.or.jp

ホームページアドレス

http://www.inoue-kenji.com/

## 井上健次のプロフィール

1959年生まれ  
毛呂山町議会議員2期  
総務文教常任委員  
議会だより編集委員長  
埼玉西部環境保全組合議員  
株式会社 井上農場 役員  
(社)もろやま大地の役員  
経歴  
毛呂山町PTA連合会長  
川角中学校PTA会長2期  
筑波大学付属坂戸高校  
PTA会長 2期

酷暑の候、お見舞い  
申しあげます。

春先の長期予報の「冷夏」がハズレ、連日35度を超えるような酷暑のなか、皆様におかれましては御健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

7月11日に行なわれた第22回参議院選挙では、菅首相の「消費税発言」が迷走し、民主党の大敗と新たなネジレ国会が誕生いたしました。

息を吹き返したように見える自民党も、毛呂山町では比例区での選挙結果が、民主党4,910、自民党4,024、公明党3,008、みんなの党2,168、日本共産党950、社民党767の結果となり、連日メディアでの報道どおり「自民党に戻りたくない」という現れが、第3極の「みんなの党」に票が流れた格好です。

また、今回のネジレは自民党が与党時代のネジレとは違い、参議院で議案が否決された場合、衆議院に戻して再可決が出来ない不安定な国会運営であり、野党は衆議院の解散総選挙を模索する有様となってきました。

そんな中、毛呂山町では6月定例議会、7月臨時議会が開かれました。その議会の動きを議会だより第69号の発行に併せて、私なりの町政報告を此処にさせていただきます。

## 先決処分での議案 それぞれ 可決

地方税法等の一部が改正されたことを受け、先決処分となっていた条例の一部が可決されました。地方税法の改正は

○16歳未満の扶養親族に係る扶養控除(33万円)を廃止。

○16歳以上19歳未満の特定扶養親族に係る扶養控除の上乗せ部分(12万円)を廃止し、扶養控除額を33万円とする。

○19歳以上23歳未満の特定扶養親族に係る扶養控除(45万円)及び23歳以上70歳未満の扶養親族に係る扶養控除(33万円)については、現行どおり。

(注)右の改正は、平成24年度分以後の個人住民税について適用。

○たばこ税の税率

市町村たばこ税

1000本につき3,298円

4,618円

一本あたりでは1,32円値上げとなります。

(注)右の改正は平成22年10月1日より適用。

これに伴い、町条例では扶養親族情報の申告が必要となります。

また、たばこも10月1日から値上がりします。

その他、

・都市計画税条例、国民健康保険条例については議会だよりの説明どおりです。

・職員の育児休業等に関する条例及び勤務時間・休日及び休暇に関する条例については、人事院で定める期間を基準としているものです。

## 川角中学校・役場庁舎 耐震補強工事請負契約締結

昨年、6月17日の朝日新聞に驚く記事が掲載されました。それは、埼玉県内の小・中学校の耐震化率についての記事です。

埼玉県は全国でも耐震化率が62%と低く(全国平均67%)、都道府県25位であり、埼玉県内の市町村別の耐震化率では、毛呂山町が36.7%で最下位だとい

うのです。

毛呂山町議会でも多くの議員より、小・中学校校舎の耐震補強について一般質問が出され、その後、麻生内閣時代に行なわれた度重なる緊急経済対策による予算措置によって、毛呂山町の小・中学校の耐震診断・耐震設計が前倒しとなり進んだのは事実です。

今回、昨年の毛呂山中学校に続いて川角中学校の耐震工事は、いつ来るか解らない大災害から子ども達を守る大事な施策であり、残る泉野小学校・光山小学校そして災害時には緊急避難場所ともなる各小・中学校の体育館の耐震工事も急がれるものです。

また災害時の指令本部となる役場庁舎は、町民のみならず公の資料を保管しており、万人の財産と言えるものでしょう。

今回の耐震補強工事締結で、問題とされるのは、入札に現れる内容です。

川角中学校では、制限付一般競争入札で19社のうち、事前辞退3社、16社応札で14社が最低価格の入札結果の末、抽選くじで(株)森田建設に決定。

役場庁舎でも、同じく制限付一般競争入札で19社のうち、9社が事前辞退、1社が会場で辞退の末、最低価格の入札をした3社による抽選くじで

住協建設に決定しました。

小・中学校の耐震補強工事に関しては、最初の川角小学校の時から、必ず最低価格に応札業者が何社も集中しており、結果として抽選くじ引きによって請負業者が決定するというものです。

100年来の不況といわれる昨今、「安定している公共事業だから・・・」とは言え、これほど最低価格に入札結果が集中するのであれば、設計価格から予定価格・最低価格の算出にまで・・・、議員として、疑念がおよんでしま

うのは当然の事でしょう。

特に、子ども達の安全面を考えれば、最低価格でひしめき合う入札により、工事そのものにまで疑心暗鬼となるようでは、安い入札にこだわるのが本末転倒だと言え

るものです。

町は、公共事業の入札方法を更に精査・研究し、疑念を持たれない契約となるよう心がけるべきです。

## 井上けんじの ゴジロイ

毛呂山町に  
「いい子に育て隊」を

7月20日発行の議会だよりの表紙と、同じく7月20日に発行された「広報もろやま7月号」の11ページに、泉野小学校・川角小学校、共に5年生による田植え体験が「泥の感触を楽しみながら！」のテーマで紹介されていま

す。

たまたま自身の仕事柄、どちらの事業にも微力ながらお手伝いをさせていただきましたが、子ども達が歓声をあげる様は、ほのぼのとして嬉しいものです。

泉野小学校で田植えの指導を長くされている安川さんに泉野小学校の田植え体験授業の歴史を聞いたところ、もう二十数年になるとのこと。

今年から始まった川角小学校がいままで続くか解りませんが、泥とのふれあいを楽しんでもらえる授業として残してもらいたいものです。

その川角小学校の田植え体験の協力にいられた保護者からの言葉が、今もしっかりと耳に残っておりますので紹介いたします。

「初めてのことで、何が手伝えるか解らないですが、子ども達がい子に育つなら・・・と来てみました。いい子に育て隊です。」

子ども達は、町の、世界の、宝です。いい子に育てたい気持ち大事に、是非、町へも「いい子に育て隊」、働きかけていきたいものです。



夏休みに入り、耐震補強工事が始まった川角中学校校舎